地震のとき、あなたはどうする…

筆者　名古屋大学工学部　助教授
福和 伸夫

寝静まった静寂の都会に、突然、空が光り、地鳴りに続いて突き上げるような衝撃と数秒間の強烈な横揺れが名古屋を襲った。

郊外の新築マンションの10階に住むA氏は、ベットの上で体が宙に浮くのを感じながら強烈な揺れの中で体を丸めて布団の中に隠れた。

10秒にも満たない揺れが非常に長く感じられる。揺れが終わってみると、ベットが1メートルも移動している。周りは真っ暗でよく見えないが、そばの大型タンスは倒れないでいる。転倒防止をしたおかげだ。

台所に懐中電灯を取りに行くと、突然足の裏に痛みを感じる。食器棚のガラス食器が散乱している。あわててスリッパを履いて電気をつけてみるが停電のようだ。

冷静にならなくてはと考え、揺れを思い出した。いつもの地震とは違う。ガタガタと揺れた後にユサユサと揺れたのではない。どうも直下型の地震のようだ(注1)。

神戸の火事のことを思い出し、慌ててガスの元栓を締め電気のブレーカーを落とした。

外に出ようとしたがエレベーターが動いていないので、非常階段で下におりた。他の住民も心配そうに集まってきた。

携帯ラジオによれば震源は名古屋市内直下、名古屋気象台の震度は「6強」のようだ。空が白んできて周りの様子が分かってきた。道路は泥水で冠水している(注2)。

周りの住宅の多くは倒壊し、隣の古いマンションも一階の駐車場がつぶれて、車がぺっちゃんこになっている。

上階に住む人はドアが開かなくて出られないようだ。

皆で手分けをして閉じ込められた人たちを救出することになった。お年寄りや子どもは避難所に誘導した。

皆、水や缶詰などの非常食を携帯している。とにかく二～三日は救援物資が届くのを待つ覚悟が必要だ。

自家用車に乗って避難所に向かおうとする人がいる。慌てて乗車を制止した。緊急車両が立ち往生してしまう――。

直下型の地震のときのシナリオを描いてみました。A氏の冷静な行動を参考に地震のときを想像し、事前の対策や地震後の行動の仕方を考えておくことが自分を守る早道です。

注1：揺れの大きさは震源地からの距離とともに減衰します。ガタガタとユサユサの間の時間(秒)に6キロメートルを掛けると震源地までの距離がわかります。100キロメートル離れていれば十数秒です。

注2：液状化の典型的な様子です。